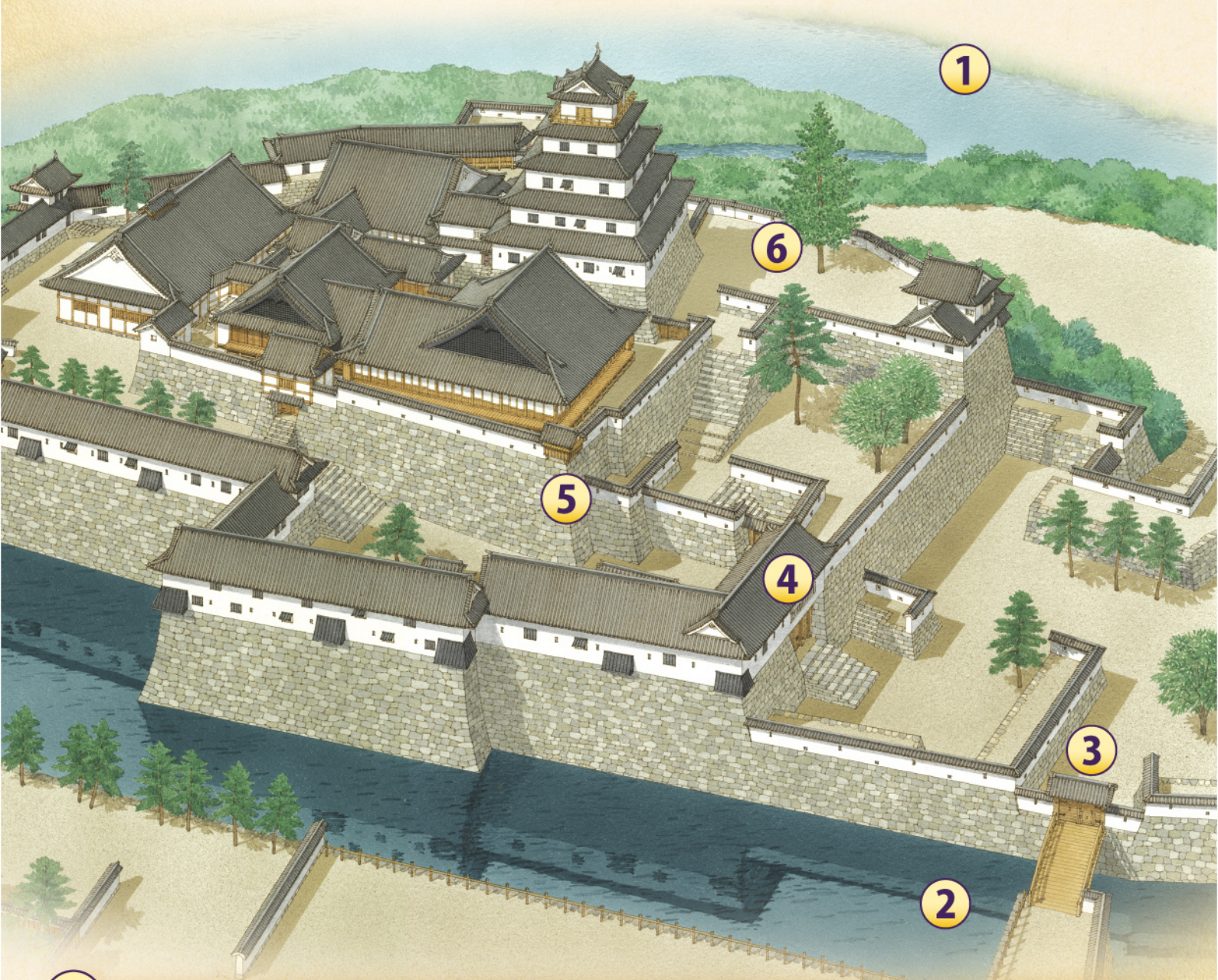


丹波亀山城 見どころ解説マップ

明智光秀公は、天正5年（1577）頃、丹波攻略の拠点とするために丹波亀山城を築城しました。下記は江戸時代後期の丹波亀山城の本丸を南方から見た復元図です。本丸の裏側である北面が、現在の南郷公園で、当時と変わらない姿を見ることができます。表側の南面は高い石垣と深い内堀で区画されており、城の表と裏ではまったく趣が異なっています。この復元図を思い浮かべながら、是非、丹波亀山城を歩いてみてください。



外 堀

場内と場外を分ける堀で、用水路となっているのを確認出来ます。現在では一級河川である雑水川の一部になっています。

2



内堀

光秀公が造った丹波亀山城の水堀は当時日本で一番広かったと言われており、光秀公の高い築城能力や先見の明が伺えます。徳川家康の天下普請の際には築城の名手、藤堂高虎によって高い石垣の上に多門櫓が造られ、丹波亀山城が日本最強のお城と言われる要因となっています。

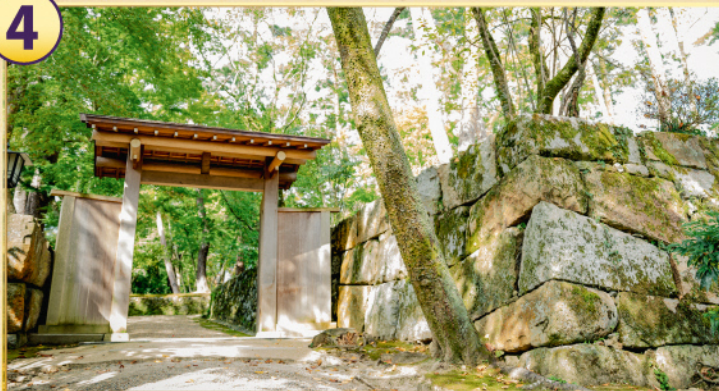
3



刻印石

よくみると石垣に□や卍の刻印(マーク)が刻まれています。これは、徳川家康の命を受けて、石材を調達した諸大名の刻印です。市内の行者山山麓に亀山城の石材の採掘場があり、25種類の刻印が確認されています。

4



一ノ門

本丸に入る最初の門であり、ここからは石垣の造りが一段上がっています。目の前には光秀公の痕跡が今も残る本丸石垣が広がっています。

5



本丸石垣

慶長13年(1608)の天下普請によって築かれ動員された諸大名の刻印も残っています。今見る石垣は、現在の所有者宗教法人大本が昭和初年の宗教弾圧で崩された石垣を積み直したものですが、下段は明智光秀公が築いた石垣が残っているとされています。

6



大銀杏

天守のあった東側に今もイチョウの木が植わっています。一説には明智光秀公がお手植えされたものだともされています。

※丹波亀山城跡は大本本部の所有地です。拝観詳細については、大本本部総合受付にてお尋ねください。

※⑥大銀杏のある天守台については立入禁止ですので、周囲から観覧ください。